



年間第 26 主日 (ルカ 16:19-31)

父よ、ではお願いです

今週は「金持ちとラザロ」のたとえです。亡くなった後の話を中心になりますが、私たちと結びつけるなら、待降節までのあと二ヶ月の間に、私の生き方は神の望みに叶っていてラザロのように扱ってもらえるだろうか、そうではなく、金持ちと言われる人のように、後悔が残るのではないだろうか。これらのことを考える材料になりそうです。

私は寝ていると夢を見ている日が多いです。何せ世界史の授業中に寝ていて、いい場面の夢を見ているときに山中寛先生から頭をひどくたたかれたことがあるくらいです。寝言は言わないほうだと思っていたのですが、どうやらそうでもなさそうです。

地区の司祭たちで泊りがけの忘年会に行った時のことです。当時 30 代だったでしょうか。翌朝の朝食の席で、先輩方が深刻な顔で言うのです。「おい。昨日はどんな夢を見たか？『ごらんください！』って叫びながら万歳してたぞ。」先輩方がそう言うのですからそうだったのでしよう。しかし当の本人は、どんな夢だったか思い出せませんでした。

いろいろ想像してみました。良い夢と悪い夢の両方を考えました。良いほうは、タラントンのたとえです。預けられたお金をうまく運用して、ご主人にこう言っている場面です。「御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。」(マタイ 25・20) きっとこうだろうと思います。そうに違いない！

しかし、悪いほうの可能性もあるでしょう。本日の朗読の金持ちは「父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます」(ルカ 16・24) と叫んでいます。字面はありませんが、「(御覧ください。)わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます」と夢の中で叫んだのかもしれない。

良いほうはこれ以上考える必要はありませんが、悪いほうの可能性は今週の反省材料として考える価値があります。金持ちがもだえ苦しんでいる場面でいくら叫んでも、「渡ろうとしてもできないし、越えて来ることもしない」場所なのですから、今のうちに将来のためにできることはしなければなりません。

先週、非公開ミサでこう呼びかけました。「(9月25日は)世界難民移住移動者の日です。世界中の見ず知らずの人と友達になるために、自分の持ち物を手放す日とも言えましょう。私たちがこの世の持ち物で世界中の難民移住移動者と友達になれば、すべてのいのちを守る一助となります。」最近、全くの見ず知らずの方から「今後実施予定の耐震補強のために使ってください」と寄付をいただきました。21世紀を旅する田平教会のために志をくださる人に倣うことは、今すぐにでもできるわざです。

ただ私は、「司祭」という身分で将来のために慰めを受ける積み立

てが必要です。紫の衣を着ることもあるし、毎日ぜいたくに暮らしていると言えば、言えなくもありません。このままの状況では、おそらく私はもたえ苦しむでしょう。神様がお世話してくださらないければ、誰もお世話してもらえない人々のために、できることを今すぐにでもしなければなりません。

こういう方法があるかもしれません。イエスは別のところで言っています。「あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」(マタイ 6・2-4)

中田神父がヨボヨボじいちゃんにならずに働くことができるのは、あと残り 20 年くらいでしょうか。もう、誰のために何をお世話したか、大っぴらに話さないことにしましょう。誰からも面倒見てもらえない人のために何かお世話できたとしても、それを言い触らせば私の報いはこの世限りになります。だから、もう言わない。これで、この世の富で天に富を積むことにしましょう。

ここから、あと二つのことを話します。一つは、「私にとって、もたえ苦しむ結末を見なくて済む方法は何か」を考えることです。もう一つあります。それは、物語の中の金持ちの言葉です。「父よ、ではお願いです。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。」(16・27-28)

この金持ちは、最終的に自分自身のことは断念しました。もはや取り返しがつかないと悟ったからです。けれどもまだ地上に残っている兄弟たちは救えるかもしれないと考えました。私たちも、一応この辺りも考えましょう。私自身はもはや取り返しがつかないと悟った時、「父よ、ではお願いです」と、誰かの救いのために行動できるでしょうか。

自分自身、取り返しがつかないのであれば、誰が救われても同じことのような気がしますが、それでもほかの兄弟たちのことをこの金持ちは心配しました。私は本当に、自分はダメでも、ほかの人は救ってやっってくださいと言える人だろうか。ここは考えておきましょう。ひよっとすると、この「父よ、ではお願いです」が、私を最後の最後に救ってくれるかもしれません。